

学習内容報告書 フォーマット

学校名	小笠原村立小笠原小学校
授業者	今井 英一 小野里 雅由

1. 単元計画

4月27日	火	アオウミガメの学習のレクチャー
5月6日	木	アオウミガメのワークブック 水揚げ見学・白色化観察に向けて
5月12日	水	アオウミガメの水揚げ見学
5月18日	火	海洋センターの見学・紹介
6月1日	火	アオウミガメのワークブック（白色化に向けて）
6月8日	火	アオウミガメのワークブック（産卵調査体験・夜パト体験・ウミガメ卵移殖に向けて）
6月22日	火	産卵移殖体験
6月25日	金	ふ化箱設置
6月24日	木	産卵調査体験
7月6日	火	カメ夜パト1日目
7月7日	水	カメ夜パト2日目
7月12日	月	ふ化箱のふ化とふ化率
9月14日	火	天然浜ふ化率調査体験
9月18日	土	定期計測
9月22日	水	子ガメの放流会
10月5日	火	定期計測
11月2日	火	定期計測と解剖・標本
12月2日	木	ウミガメ漁について
12月7日	火	定期計測
1月25日	火	まとめの学習
2月1日	火	標識付け練習・定期計測
2月8日	火	まとめの学習
2月15日	火	まとめの学習
2月16日	水	まとめの学習
2月22日	火	まとめの学習
2月24日	木	まとめの学習
3月1日	火	標識付け・定期計測
3月2日	水	まとめの学習
3月4日	金	まとめの学習
3月15日	火	放流会
3月11日	金	発表会

1-1. 単元名

アオウミガメの学習

1-2. 学年

5年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

小笠原海洋センター（NPO 法人）の全面協力により、身近な存在である小笠原父島でのアオウミガメについて、生態・歴史等を年間通じて学習する内容である。1年間を通し、春に海岸に産卵された巣を掘り起こし、その卵を学校設置の移殖箱に移し、孵化の様子を観察、孵化した稚ガメを海洋センターにて飼育し、年度末に放流する。また、アオウミガメ保護・調査活動「産卵調査」「卵の移植」「標識付け」「夜間パトロール」や飼育活動「定期計測」「水槽掃除」など小笠原海洋センターに行っている日々の取り組みにも児童は参加する。生態の知識を深める学習では解剖調査・骨格標本観察、また、歴史・文化的側面を深める学習も並行して行っている。そして学習のまとめとして、5年生が1年間の「アオウミガメの学習」で学んだことを4年生と海洋センターの方々への発表を行う。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

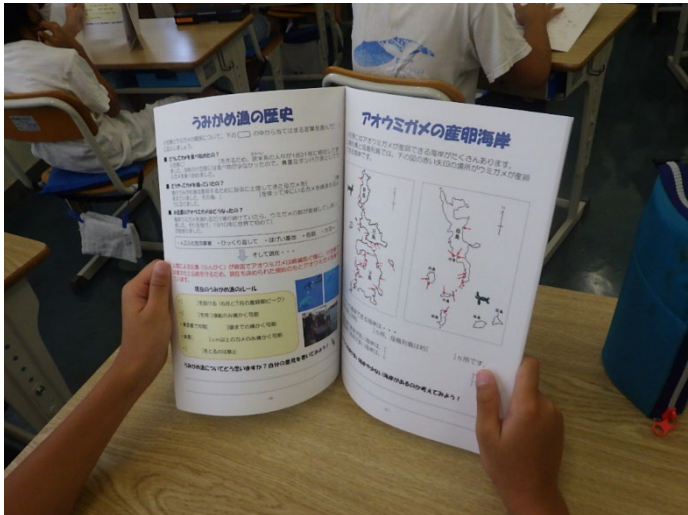

日本で最大のアオウミガメの産卵である小笠原の特色を生かした単元である。小笠原海洋センター（NPO 法人）の全面協力もあり、様々な調査や保護活動を体験できる環境にもある。また、保全活動をはじめ、小笠原の文化・歴史的などにも関わる側面もあり、ただ、知識を深めるだけでなく幅広い課題や疑問に出会うことができ、総合的な学習における探求的な学習に適した単元であると考えられる。最後の発表では、PC 端末などの ICT 機器を活用しながら、国語などの他教科で培った力を総合的に発揮できる場として設定している。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

身近な存在であるアオウミガメの知識や理解を深めるだけでなく、そこから探求したい課題を設定し、自分たちで追究していく力を伸ばしたいと考えている。また、この学習を通してアオウミガメの保護だけではなく、マイクロプラスチックや海洋ゴミなどの環境問題に対しても、関心をもち、主体的に環境問題に取り組むことのできる態度を育てたい。

1-7. 単元の展開（全46時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	アオウミガメの学習のレクチャー ・スライドや剥製を使用して、ウミガメの基本知識や生態などを伝える。 ・小笠原にやってくるウミガメの生態と生活史の説明する。	教師の指導：アオウミガメの基礎的な知識を身に付けさせるとともに、これからの学習にむけて意欲・関心をもちさせるように指導する。 主な評価：アオウミガメについて関心をもち、自分なりの疑問などをもっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原で行われているウミガメ漁についての説明する。 	<p>外部連携 / 海洋センター 使用教材/アオウミガメのワークブック</p>
1	<p>アオウミガメのワークブック (水揚げ・白色化に向けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウミガメ水揚げ見学、白色化観察に向けての事前学習を行う。 	<p>教師の指導: 捕獲したウミガメの水揚げ見学、白色化観察の基礎的な知識について理解させる。</p> <p>主な評価: ウミガメの水揚げ見学、白色化観察について関心をもち、自分なりの疑問などをもっている。</p> <p>外部連携 / 海洋センター 使用教材/アオウミガメのワークブック</p>
0	<p>捕獲したアオウミガメの水揚げ見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オスとメスの特徴を比較する。 ・体重や甲長の測定を見学する。 	<p>教師の指導: 水揚げ見学場の安全指導。水揚げについての知識などを身に付けさせる。</p> <p>主な評価: ウミガメ水揚げについて関心をもち、自分なりの疑問などをもっている。</p> <p>外部連携 / 海洋センター</p>
1	<p>海洋センターの見学・紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋センターの見学。 ・水槽案内と餌あげ体験。 	<p>教師の指導: 海洋センターについて理解させる。</p> <p>主な評価: 様々なウミガメや海洋センターの取り組みの関心をもち、自分なりの疑問などをもっている。</p> <p>外部連携 / 海洋センター 使用教材/アオウミガメのワークブック</p>



3
アオウミガメのワークブック
(産卵調査体験・夜パト体験・ウミガメ卵移殖に向けて)
・産卵調査体験、夜パト体験、ウミガメ卵の移殖に備えて、調査方法や意義などの事前学習を行う。

教師の指導：海洋センターについて理解させる。
主な評価：様々なウミガメや海洋センターの取り組みについて理解し、関心をもっている。
外部連携 / 海洋センター
使用教材/アオウミガメのワークブック


2
産卵移殖体験
・卵をすべて掘りだし、卵を保護する。
・3グループ程度に分かれ、卵の移殖を体験する。
1 巣をふ化箱に入れ、観察準備をする

教師の指導：産卵移殖の活動について理解させる。
主な評価：産卵移殖体験に意欲的に取り組み、活動の意味などを理解している。
外部連携 / 海洋センター
使用教材/アオウミガメのワークブック

1
ふ化箱設置
・大村海岸で移殖をしたものをふ化箱に入れ、ふ化までの様子の観察をする
・毎日の地温の計測をする。
・ふ化に備えて、ふ化と脱出、走光性などについての説明をする。



教師の指導：子ガメの習性、ふ化箱の取り扱い方や注意点について理解させ、継続的に観察を行うように指導する。
主な評価：ふ化箱の設置、観察に意欲的に取り組み、活動の意味などを理解している。
外部連携 / 海洋センター
使用教材/アオウミガメのワークブック

2	<p>産卵調査体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウミガメの足跡を観察し、上陸帰海数を調べる。 ・3グループに分かれて産卵巣を探し、卵を取り出して白色化を確認する。 	<p>教師の指導：産卵調査体験の活動について理解させる。</p> <p>主な評価：産卵調査体験に意欲的に取り組み、活動の意味などを理解している。</p> <p>外部連携 / 海洋センター</p> <p>使用教材/アオウミガメのワークブック</p>
0	<p>カメ夜間パトロール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋センターで行っている夜間パトロールを実施する。 ・産卵があれば、ウミガメの産卵方法について解説する。 	<p>教師の指導：カメ夜間パトロールの活動について理解させる。明かりなどカメのストレスになるような行動がないように注意する。</p> <p>主な評価：カメ夜間パトロールに意欲的に取り組み、活動の意味などを理解している。</p> <p>外部連携 / 海洋センター</p> <p>使用教材/アオウミガメのワークブック、暗視スコープ</p>
1	<p>ふ化箱のふ化とふ化率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふ化した子ガメの数を数える。 ・子ガメの観察と計測を行う。 ・放課後子ガメを水槽へ入れる。 	<p>教師の指導：子ガメの扱いに注意するように促しながら、観察、計測を行うように指導する。</p> <p>主な評価：子ガメの観察、計測に意欲的に取り組み、活動の意味などを理解している。</p> <p>外部連携 / 海洋センター</p> <p>使用教材/アオウミガメのワークブック</p>
2	<p>天然浜ふ化率調査体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3グループに分かれ、ふ化率調査を体験する。 ・自然の海岸でのウミガメ卵のふ化状況などを知る。 	<p>教師の指導：天然浜ふ化率調査体験の活動について理解させる。</p> <p>主な評価：天然浜ふ化率調査体験に意欲的に取り組み、活動の意味などを理解している。</p> <p>外部連携 / 海洋センター</p> <p>使用教材/アオウミガメのワークブック</p>



定期計測

- ・ 9、10、11、12、2、3月に実施する。
- ・ 5年生ガメの成長の様子を記録する。
- ・ まとめの学習に向けて、必要な資料などをデジタルカメラで撮影する。
- ・ 水槽掃除の仕方を学び、アオウミガメやほかのウミガメにも間近で触れて観察する。

8



教師の指導：子ガメの成長や海洋センターの活動について理解させる。

主な評価：子ガメの成長や海洋センターの活動に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。

外部連携 / 海洋センター

使用教材/アオウミガメのワークブック、デジタルカメラ、デッキブラシ、ドライワイパー、スコッチブライト、スポンジ



子ガメの放流

0

- ・ 自身の手で子ガメを放流する。
- ・ 子ガメの走光性について体験する。

教師の指導：子ガメの習性などについて理解させる。

主な評価：子ガメの放流の活動に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。

外部連携 / 海洋センター

解剖・標本

2

- ・ 各臓器の説明とスケッチする。
- ・ ヒトやイヌなどの内臓の仕組みと比較する。

教師の指導：ウミガメの内臓の仕組みや骨格などについて理解させる。

主な評価：解剖や標本の学習を通して、関心をもったり、新たな疑問をもっている。

外部連携 / 海洋センター

使用教材/アオウミガメのワークブック、デジタルカメラ



ライドで発表する。



主な評価：グループで協力して、伝わりやすいように発表している。

外部連携 / 海洋センター

使用教材/PC 端末

子ガメの放流会

- ・ 1年間継続して観察、飼育してきた子ガメを放流する。
- ・ ウミガメの生息する環境を守ることの大切さを感じながら、ビーチクリーンを行う。



教師の指導：1年間通して育てた子ガメを放流することの大変さや意義などについて理解させる。

主な評価：子ガメの放流やビーチクリーンの活動に意欲的に取り組み、活動の意味などを理解している。

外部連携 / 海洋センター

使用教材/アオウミガメのワークブック

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

【まとめの学習の導入】

友達と協力しながら、自分達の追究したい課題について考え、役割分担を決め、調べた方やまとめ方を話し合っ

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
① 本時の目標の確認をする。	
② 昨年度の発表会のまとめのスライドを紹介して見通しをもつ。 反応/伝わりやすいスライドなどは児童からも見やすいと反応がでていた。	教師の指導・支援 / 具体的に自分たちが行う発表会に向けて、イメージし、見通しをもてるようにする。
③ 発表会の方法について理解する。 ・制限時間は1グループ7分。 ・4年生に向けて発表する。など。	教師の指導・支援 / 4年生にむけて行うということを意識付けさせ、まとめる際の言葉選びなどにも注意させるようにする。
④ スライドの使い方、まとめ方について理解する。 ・伝わりやすいレイアウトについて。 ・スライドの使い方や注意点。など。	教師の指導・支援 / 画像の貼り付け、見やすいレイアウトなど基礎的な部分を指導するとともに、共有でスライドを編集する際の注意点などもしっかり理解させる。
⑤ グループに分かれ追究したい課題の設定理由、調べる役割分担などを決める。 反応/ グループごとに集まることにより、さらに詳しく調べたいところなどを話し合い活動していた。	教師の指導・支援 / 調べる部分が重なったり、内容として足りないところがなかったりしないように支援する。出典、著作権についての情報モラルについても指導する。 評価の視点（方法） / 友達と協力しながら、自分達の追究したい課題について考えを深めている。役割分担を決め、調べた方やまとめ方を進んで話し合っている。
⑥ まとめのスライドを作成する。	

3. 今回の活動の自己評価

成果

- ・海洋センターでの体験的な学習を通して、実際に体験したことの中から知識や理解を深めることができた。基礎的な知識がしっかりと定着した。
- ・今回購入したデジタルカメラにより、海洋センターでの学習の際に資料館の資料や定期計測の様子を撮影することができた。その写真をまとめ学習の際にスライドに貼り付けたり、資料として見返したりでき、大変活用することができた。
- ・年間を通して、子ガメの飼育を行い、最後に放流するという活動は、生態などを知るだけでなく、生き物を大切に作る気持ちを育て、環境問題について考える上でも有意義な活動である。
- ・ワークブックを活用することで、知識の獲得だけでなく、理由や意味なども知ることができた。今後も継続して行っていく。

課題

- ・発表会では、4年生に向けて伝わりやすいようにスライドにまとめることができたが、パソコンの操作や発表する際の立ち振る舞いなどは、今後も経験が必要であると感じた。
- ・まとめの学習以外は、児童が課題設定したり、追究したりする学習の機会が少なかった。

4. 今後の課題

- ・3学期からまとめの学習を行っているが、2学期から少しずつ始めて、疑問や課題をもちながら体験的な学習に取り組むとまとめに向けての児童の意識付けや意欲の向上につながるのではないかと考える。
- ・今回は4年生に向けて発表していたが、コロナ渦以前は世界遺産センターを会場にして、地域・来島者・保護者に向けての発表を行っていた。感染症対策などの問題もあるが、可能であれば参加者を増やし、児童の発表を見てもらえる機会を増やしたい。
- ・まとめの学習では、スライド使用して発表に統一した。今後行っていく中で、動画を作成したり、実際の道具を借りて説明したりなど発表方法も児童が選び多様化できると良いと感じた。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・特になし

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。